

# けんしゅうしましよ

4号

R1. 7. 18  
文責 新川

道徳 主題名 正しいと思うことは自信をもって  
中心内容項目 A 主として自分自身に関すること  
(善悪の判断)

資料名 二つの声  
3の1 小林学級

7月3日(月)2校時、3の1において授業が行われました。  
自分の中にある良い声と悪い声に悩まされる人物を通して、正しいことを自信をもって行うことの難しさや大切さについて、みんなで考えました。



## 今後の道徳の授業作りに向けて

「二つの声」を通して自分の罪を正直に打ち明け正しい行動をとる場面で、人物が迷い悩む姿を通して、正しい行動をする時の大切さについて考える授業でした。

自我関与を意識した「自分だったら」「人物へアドバイスするとしたら」の発問や指導案にない発問を児童の反応や様子に合わせて投げかけ、展開の部分ではじっくりと考えさせていました。「罪が重い」「罪が軽い」に児童の思考が流れる場面もありましたが、深入りせず軌道修正するなど、本時のねらいからずれない授業になっており、参考になりました。

指導主事からは、スムーズな導入や学び合う雰囲気よさなど、日常的な指導の積み重ねが感じられること、共通解で一度子どもを着地させるのはよいが誘導にならないように配慮すること、「自分だったら」が行動宣言にならないようにすることなどについてお話がありました。

お忙しい中、授業を公開してくださった小林先生、ありがとうございました。

### ①導入について

・廊下の実際の提示物を使うなどの工夫がみられ、5分程度でスムーズに流れていた。

### ②自我関与させる展開の工夫について

・昨年度は心情を問う発問が多かったが、心情を問わなくても語れる授業という感じがした。  
・授業の中で「自分だったら？」と問いかけずとも、人物に自分を重ねて語ることをイメージしながら今年度は研究を進めてきた。これまで4回の授業研究を通して試行錯誤してきたが、「自分だったら？」の発問によって、子どもたちが教材の世界にもう一步踏み込んで考えを深められることがわかった。

### ③生活とつなげるふりかえりについて

・教材から離れて考える場面では、今回はカードを使って日常生活の中で関連する場面について提示し考えさせた。生活にしっかりと戻す段階を必ずしも設定しなければならないのか、またどのような流れでつなげていくのか、どの程度時間をかけるのか、どのような形態で行うのかについては、価値項目や教材と深く関係するものなので、更に研修を深めていく必要がある。

今年度新たにスタートし、試行錯誤しながら進めてきた研究ですが、これまでの4つの授業から少しずつ目指す子どもの姿や授業のスタイルが見えてきました。授業の公開や指導案作り、たくさんのご意見ご質問ありがとうございました。